

注：単位億円、上段は12年4-9月期、下段は13年3月期見通し。カッコ内は前年同期比増減率%、▼は赤字またはマイナス

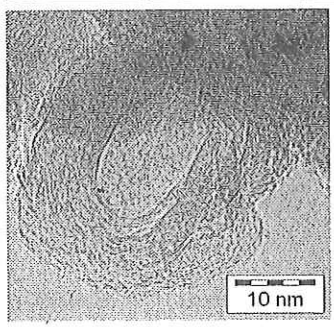
社名	売上高	営業利益	経常利益	当期利益
新日鉄住金ステンレス	1,031(▼14.8) 非公表	▼41() 非公表	▼51() 非公表	▼51() 非公表
日本冶金工業	527(▼23.7) 1,100(▼18.4)	▼32() ▼29()	▼40() ▼40()	▼48() ▼48()
日新製鋼ホールディングス(HD)	570(▼21.9) 1,350(▼1.5)	非公表 非公表	0() 0()	非公表 非公表
日本金属工業	327(▼27.3) 未公表	▼50() 未公表	▼55() 未公表	▼99() 未公表
日本金属	202(▼3.0) 405(▼2.7)	3(▼46.9) 8(60.3)	2(▼55.8) 4(3.3倍)	1(▼54.1) 2()

注：単位億円、上段は12年4-9月期実績、下段は13年3月期見通し。カッコ内は前年同期比増減率%、▼は赤字またはマイナス

千尋 0億
12年4-9月期連結決算は全社が減収、3社が経常赤字となった。これを受け、13年3月期連結業績は輸入鋼材との厳しい競合に活路を見いだすための正念場となる。最大の手の新日鉄住金ステンレス(NSSC)は、12年度下期に30億円近いコスト削減効果を挙げて収益回復を狙う。日新製鋼は下期に日本金属工業と営業機能を集約。減産も視野に入れ、安値は正に努める。日本冶金工業は53億円のコスト削減計画を策定した。

年度下期に30億円近いコスト削減効果を挙げて収益回復を狙う。日新製鋼は下期に日本金属工業と営業機能を集約。減産も視野に入れ、安値は正に努める。日本冶金工業は53億円のコスト削減計画を策定した。

素材・医療



日新製鋼は日

日清紡ホールディングス又は尾崎純一群馬大学教授との共同研究で、非白金触媒として開発中のカーボンアロイ触媒(写真)に含まれる微細な金属が酸素還元反応(ORR)の活性に影響しないことを突き止めた。高価で希少な白金に代わる新触媒の実用化に道を開くもので、触媒の活性につながる物質が見いだされれば開発の方向性が明確になる。研究成果は14日に福岡市で開かれる電気化学会主催の第53回電池討論会で発表する。研究開発が進められている燃料電池車(FCEV)は、水素から電気

ORR活性に影響せず

金工との営業部門集約の効果など下期に生産・販売におけるシナジーを狙う。日新製鋼は下期の生産を上期比25%減の9万トに抑える計画。また、16年3月に休止予定の衣浦製造所(愛知県碧南市)の製鋼設備を約33億円で減損処理することで、今後の償却負担を軽減した。

項目	12年4-9月期	13年3月期見通し
売上高	5,990	5,934
営業利益	12,000	934
経常利益	1,650	1,954
当期利益	1,700	626
配当	1,080	28
大塚ホールディングス(4-9月期)	58	45

単位億円、増減率%、下段13年3月期見通し、▼は赤字、マイナスマークは上段カッコ内は前期の実績、下段カッコ内は前期見通し

大王製紙は13日、2013年3月期連結業績予想で、売上高を5月公表比60億円減の4120億円に下方修正したと発表した。営業利益は同5億円増の140億円、当期利益は同145億円増の195億円と上方修正、経常利益は据え置いた。特別増益として北越紀州

益(約1億4千万円)を生じたことなどで前回予想を上回るとした。12年4-9月期連結決算は印刷用紙の需要低迷が響き、売上高は前年同期比2・8%減の1983億円、営業利益は同12・8%減の50億円。経常利益は同13・1%増の25億円、当期利益は187億円(前年同期は28億円の赤字)の黒字に転換した。とで行った。さらに塩酸を使って残存金属を除去した。その結果、塩酸で洗浄した同触媒は金属の凝集体は確認できなかった。一方、洗浄していな

る。研究開発は14日に福岡市で開かれる電気化学会主催の第53回電池討論会で発表する。研究開発が進められている燃料電池車(FCEV)は、水素から電気

をとり出す触媒に白金を用いる。ただ、白金触媒は高価である点が課題だった。このため、白金触媒の代替材料としてカーボンアロイ触媒の開発を進めてきた。一般的にカーボンアロイ触媒の表面には表面窒素、金属などが存在するという。実験ではカーボンアロイ触媒の調製としてPAN共重合体と塩化鉄の溶液にカーボンブラックを加え、1200度で炭素化し、粉砕処理すること

季節影響ではない

夏場の天候は業績に影響を与えるが、実際は「非常に天気が良好で残暑も結構続き、本来であれば追い風はず」。販売増となるはずが結果として前年並みにとどまった。

金子さん

悪天候続きの事業環境に頭を痛める。

LED向け

子オン成分を見直して紫外光や熱に対する耐性を高めた。硬化速度の制御機能も向上した。用途別の使い分けに応じて、製品にアンモニウム系とホスホニウム(リン)系をそろえた。